

## 里芋の葉っぱをかぶって

## 甲斐文子(長畑)

私は昭和四年四月に長谷尋常高等小学校に入學致しました。そして昭和十年小学校卒、昭和十二年高等科卒業でございます。この間八年お友達と仲よくしたり、喧嘩もしたり、男の子からなぐられたりした事を思い出します。私達の時代には今のようには先生とか自分より目上の人には決して口答えは出来ない時でしたから、学校で先生に出合ったら顔を赤くして、おじぎをしないでどこかへ行ってしまうようにしていました。私は学校から五キロも遠い所なので朝は早く出て、帰りは夕方でないとい帰りが着きませんでした。私は妹と八歳も年齢が違うので一緒に通学する兄弟もなく、女は私一人で男の子は四人いましたが、男の子と帰ると悪口を言われるので上級生の女の人を待つて帰りましたから学校は早く終わっても帰り着くのはおそくなりました。

祝祭日には式があり、今のように独立した講

堂はなかったので二階の教室の間仕切の戸を取り除き机や腰掛等を取り除き式場をこしらえて大変な事でありました。今は長谷小学校も六学級で全校生徒も百人足らずだそうですが、私達の頃は全校生徒四百人以上で朝会の時は見事なものでした。私共の頃は多い家では子どもが四、五人の家もありました。

その頃は家族も多い家が多かったので家計も苦しい家が多く、弁当も麦か粟御飯が殆んどで、おかずも梅干か漬物程度でした。暮らしのよい家の子供は卵焼き等を入れて来る人もありました。魚や蒲鉾等は祭りの残りもののある時くらいのものでした。

農家の忙しい時にはクラスに一人か二人は学校に妹か弟を連れて来る人も有りました。又、学校を休んで子守りをしたりする人も有って今では本当に考えられない時代でした。

又、服装と言えば着物に草履で、冬は袴には

んてんで袖口には鼻をつけてびかく光っているし、女の子の頭にはしらみがいて、それを見ると先生の話も身に入りませんでした。学校からの帰る途中雨が降っても親が迎えに来てくれるわけでもないの、よその里芋の葉っぱを頭にかぶって帰っていました。

今その当時の事を振り返って見ると、今の子供さんは何と仕合わせな事でしょう。家には子供は少なく、子守はしなくてもよいし、遠い所から水はくまなくてもよいし、きれいな着物を着て、何時も大分行きみたいにして、食べるものもお正月のような御馳走は食べられるし、又、どこの子供も勉強ができると聞いています。本当に私達の時代の事は夢にも見たく有りません。こんな事書いても今の子供さん達には理解できないと思いますが、幸せな時代に生まれていますので今後共ますます発展される事を祈り申し上げます。